

平成29年度 第2回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 次第

日時:平成29年11月9日(木)

午後1時30分～午後3時30分

場所:釧路市役所 防災庁舎5階

災害対策本部室

1. 開会

・委員11名中9名出席につき、会議が成立していることを確認

2. 副市長あいさつ

3. 議事

(1)人口関係データについて【資料1】

事務局より、【資料1】をもとに説明あり。

委員からの質問・意見なし

< 以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ■…釧路市】 >

(2)総合戦略の数値目標と施策の進捗について【資料2】【資料3】【資料4】【資料5】

事務局より、資料2～5を用いて、基本目標ごとに説明

【基本目標1】についての委員からの質問・意見

○今のKPIの説明の中で、創業支援や新規創業者といった数と、これと先ほどの資料1の人口データの②に去年より減ったと説明のあった15歳から29歳の社会減が、ここ3年、2014年から2016年にかけて非常に社会減が減っている。若者の定住が進んでいるということも言える。こういう雇用の場の創出が、非常に影響しているのかなと思うが、その辺というのは関係があるという風に捉えているか。

■ご意見のとおりと考えている。人口減少の社会減というのは平成18年から21年くらいが非常に大きくて、この②のグラフで見てもお話のとおりである。2012、13年に関しても若い世代、特に20～24歳の減少が激しかった中で、最近は実際問題として若い人達の社会減は減少傾向にあるということである。ただ減っていることは事実であるので、そこはしっかりと受け止めて少しでも若い人達が地域を担うという形を今後も進めていかなければならない。新規創業支援資金の内訳を商業労政課から資料を取り寄せて拝見したが、意外と若い人の、20代こそまだ少ないが、30代で飲食店開業だとかサービス業開業だとか、こういった方々が68件中10件以上あったということなので、チャレンジする若い人達を応援できるような形を、今後も考えていき

い。

- 全体の人口減が進んでいる中においても、若者の雇用の場がある程度確保されるというのは非常に良いことだと思う。
- 基本目標1の数値目標の一番最初に市内総生産額が挙げられていて、非常に大きな要素だと思うが、市内総生産額が実際の現状よりも高くなる目標があるので一方で人口がどんどん減っていているという現状を考えると、まず域内の一世帯の総生産額というのは、25年の人口18万人対して5,700億円で計算するとだいたい320万円となっていて、30年はまだわからないが29年から若干減って17万人だとして試算すると380万ぐらいとなる。そうすると一人あたりの総生産額が60万円ぐらい上がらないと達成できないという計算になる。結構大きい。2割増ぐらい。そう考えた時に結構ドラスティックなことをせざるを得ないと感じていて、KPIの数値目標、様々検証されていて、うまくいっているのといっていないのがある中で、大きく変化を与えていくというものが必要なのかなということを、今お話を伺っていて感じた。今まだ結果が出てこなくて、それに対して新たに計画を、施策を増やしていくという議論はまた別の話になってしまうが、そういった視点も必要なのかなと感じた。
- ご指摘の通りだと考えている。人口が減っていく中で当然、市場が小さくなれば商業ですとか、小売り、卸し、そういった部分の生産額というのも落ちるという事が想定をされている中で、いかにひとり辺りの所得を上げていくか、生産額を上げていくかそういったものが命題になっていると思っている。人口が減ると労働生産性というか、働いている人の数が減ってくるのが見込まれるので、そこは経過を見ながら我々もどう動かせばいいか、正直言えば6,500億というのは非常に難しい数字だというように思っている。その中で難しいからと言って引き下げるのでは無く、やはり高みを目指して上げていくべきかなと思っている。
最近港湾関係が少し好調な数字で出てきているし、データとしては今年の話なので出てきてはいるが、そういった部分もあるので、ひとりあたりの生産性を上げつつ、そういった新規雇用をしっかりと見出していき、そういった取り組みが必要ではないかなと考えている。
- ◎今の指摘というのは非常に重要な視点で、そのKPIなり数値目標なりの整合性との兼ね合いというのは、まさに人口が減る中で総生産額を上げていくためには、生産性をいかに高めるか、そのためにどういったことができるかということがないと言現できないことなので、そういうバランスを見ながらこれからどういう施策をもってくるのかということを中心に考えていく必要があるかと思う。

【基本目標2】についての委員からの質問・意見

- 資料4の一番上に国際会議MICE誘致の推進ということで、国際大会、全国大会が9件、10件、8件とそんなに変わってないといえば変わってないのかもしれないが、この下にある減の要因がスポーツ大会の釧路開催の減によるというふうにはっきりわかっている。確かにスポーツ大会というのは2年、3年前から持ち回り等で場所は決まるけれども、1回の開催で千人2千人の方が何日も泊まるというふうには非常に効果が大きいMICEでもあるので、今後もスポーツ施設の環境

整備というものを進めてなるべく全国大会を呼ぶようなことを進めてほしい。

- ◎数値目標の長期滞在のところだが、以前はエージェント経由の部分が入っていなかったのを、最近入れている。連続性についてはどうなっているのか。
- 今回このデータを作るにあたってエージェント込みのデータに全て直している。26年も全部エージェント込みのデータである。
- そもそも長期滞在とは何日間をいうのか。
- 滞在期間4日以上という定義となっている。
- 長期滞在者の中で、どの程度リピーターがいるのかというような調査はしているのか。
- アンケート調査の中でやっているが、全員にアンケートを答えて頂いているわけではないので、データとしては分母が非常に少なくて、それをもってどれぐらいリピーターと言えるかというところだと思う。ただ原課なりビジネス研究会の皆さんの実感としては、来年の予約をしていく人達ばかりだという表現をされるので、かなり多くの方がリピーターになって頂いているのではないかなと思う。アンケートを書いて頂いた方のリピート率は非常に高いと聞いている。ただ分母が20とか30なので、どこまで信用していいのかというもある。
- ◎エージェント経由の人達と、そうじゃなく直接来ている人達によって違いがある。エージェント経由の人達のリピーター率はまだそんなに多くない感覚がある。そうじゃない直接来ている人達のリピーターは増えている。今の段階ではエージェント経由の人達が多くて、リピーター率でみるとそれほどでもないということだと思う。
- 旅行代理店が9泊10日とか、そういったツアーを作っていたらいい、そちらのほうが代理店経由ということでカウントさせていただいている。もともと大阪方面でそういったツアーを組んでいたのがきっかけで、今東京ですとか名古屋方面でもそういったツアーを作っていたらいい話も聞いているので、拡大の余地が大きくあると考えている。
- 東京オリンピックを目の前にして、釧路市のほうで長期滞在者の受入れだとか何か施策みたいなものは考えているのか。
- ダイレクトな施策というか今後の取り組みと致しましては、まずベトナムの合宿誘致、こちらの方が成功している所なので、まずひとつそこをしっかりと進めるというのが大々的かなと思っている。問題はその後だと思っていて、オリンピックの後にいかに継続して来釧頂くことを考えていくか、やはりオリンピック期間中に来てもらって、もう一回来てもらうとかそのあたりは確かに課題だなと思うので、その辺観光サイドとスポーツ課サイドと連携をとってまいりたい。
- 長期滞在の伸びについて、すごく伸びている一方で、参考でつけていただいている関連統計の北海道の長期滞在も非常に伸びているというのがある。割と全体が伸びている中で、釧路だけ見ていると、釧路は伸びているから釧路いいねってことで終わりがちだと思うけれども、北海道全体が伸びている中でのシェア率というのはどうなのか。
- ちなみに利用者数について釧路市が1,311人の中で6年連続1位となっている。昨年2位の街が登別市で、190人ということで圧倒的に釧路市が実績は抜きんでている。シェアとしては単純に割り返すだけでも3割程度、33%ということで釧路が優位な数字が出ている。
- 今、圧倒的優位であるからこそ、この圧倒的優位を手放してほしくないというのがあって、たぶんこれから他の地域も釧路が圧倒的にすごいということで、長期滞在がいいぞということになれ

ば他の都市も力を入れてくるとなると、ここからが本当に競争になって、ある意味これからが試されるということになる。釧路は先進的に取り組んでいたが故に、競争・競合がない中で先にとれたという側面はあると思うが、それを先にとった優位性というのがアドバンテージがあるものをそこにあぐらをかいてしまうと他が追い付いてきて気付いたら並ばれたという可能性もあると思うので、常に3割あるいはさらに4割5割も行くぞというところで、全体の伸び率と釧路の伸び率の比較をしていただいて、ぜひこの素晴らしい取り組みを継続してもらいたいと思う。

○長期滞在の年齢層は高齢の方になるのか。

■昨年実績でいうと8割以上が60代になっている。70代が8.5%なので90%以上が60以上ということになっている。

○若い人を道東に呼ぶというようなアイデアは、長期滞在のほうでは考えてないのか。

■全く考えていない訳では無くて、ワークライフバランスの中で、夏の間は少し長く休みをとって頂いてという展開は必要だという認識はあるが、現状実際の問題としては、こういうツアーだとか、ウィークリーマンションを使ってという方では、今のところ高齢の方、もしくは仕事を終えられて、辞められて、少し余裕のある方が圧倒的だという事が現実であるので、紹介している市民協働推進課だけではなくて、商業労政課だとか、産業推進室そのあたりとも連携を取りながら、夏休みだけではなくて、釧路で働いてもらうんだと、移住定住に繋がるような若い人の誘致、長期滞在からの誘致を検討してもらってはいるけれども、中々妙案がないようである。

○最近若い人は自然に興味を持つ方がとても多くて、釧路は最高の自然があるので、もっと若い人の長期滞在者を取り込むようなことをやっていただきたい。

■その意味で言うと、今都市経営課の方で行っています、ゼミ合宿の誘致が、そういう形で使われればと思うけれども、面白いもので夏休みの8月に来ない。9月にゼミ合宿が釧路に来るという事で、8月に何故来ないのかと思ったら遊びで忙しいと言われた。我々の意図している部分、当初想定していた部分と違ったりしていた。そういったゼミ合宿誘致などが、若い人達の長期滞在に繋がればと思う。やはり若い人達もゼミ合宿で3~4泊は最低でもしていく。去年は関東学院大学で、今年は一橋大学に来て頂いている。あと釧路は色んな政策パッケージがあった中で個別に学生さんが釧路に取材に来て頂いている方も結構いるという、そういった部分も今後の展開に繋がるのではないかなと期待をしている。

○今フェイスブック見たが、くしろ長期滞在ビジネス研究会というのが立ち上げたということで、これは観光振興室でやっているのか。

■市民協働推進課が事務局となっているが、具体の企画というのは民間さんにゆだねているところも強い。

○長期滞在をイメージするようなものでなかったりだとか、釧路の魅力が全然発信されてないと思う。

■伝えておく。

◎長期滞在を進めるにあたって、今まではお年寄り中心でそれはそれで良かったのかもしれないが、これからどこにターゲットを絞っていくかということを考えると、今お話のあった職種なのか、あとは若い方と言ったけれども、若い方といっても30代ぐらいの方なのか、そうするとこういう職種の人とか、何か見えてくるものもあるかとは思っているので、この年代だったらこういう職種の人をど

うやって呼ぶか、どういう環境を整えるかっていうのも見えてくるとは思うので、先ほど委員からお話があったけれども、これから新しいステージに入ってくるのではないかと思うので、その中でどういったターゲットを中心に据えるのか、それを考えた時にどういう対応をしていけばいいのかということ、今ちょうど考え始める時期なのではないかという気もするので、ぜひそのようなことをしていただいてトップランナーを維持していただきたい。

○長期滞在の件でいくと確かに高齢の方、リタイアされて時間がある方が多くて、色々まちづくりだとか仕事以外のことで接する機会が自然と増えてきている。そこで感じるのが、そういう外から来た人達がリピーターになるのは、やはり釧路のご近所さんというかそういう人たちと接点を持って、接点を持った人が、今度自分たちで例えば日帰りでここに行くんだけど一緒に行きませんかとか、こういうお祭りがあるんだけど参加してみませんかとか、そういうお誘いを受けて自分も地域の一員になったような気持ちになる。そういうことになると1回来て戻るときにまた来年も来るからというふうになるようである。なかなかそれができないと何となく涼しくていいんだけど、そこまで釧路に愛着を持たずに、この時期花粉症だから来ようかぐらいな気持ちになるようで、そういう場づくりとかその地域地域でそういう人たちを受け入れるための仕組みとか何かそのきっかけ、住民たちが自発的にするんじゃなくて、それを後押しするような仕組みもだんだん必要になってくるのかなと思う。そういう地域地域が集まって一つの長期滞在者の皆さんのちょっとしたパーティーを開くとか、地域との大きな交流会を開くとか、外から来ている方は地元にはない特技を持っている方がいて、絵を書くとか刺繍が素晴らしいとか、そういう方にわか講師になってもらうとかそういうことで相手の方のモチベーションも上がるのかなとすごく感じた。こういう人と人のつながりという部分をもう少し広げていけるような活動をここに加えていければいいと感じた。

国際大会とかスポーツの点で言うと、施設というか設備が揃わない。ある程度一定レベルのものが釧路にないとうしても来れない。それが例えば帯広にあれば帯広に行ってしまうというようなことをよく聞くので、そのあたりの水準をどう維持するかっていうのを具体的に考えて計画をたてると良いのではないかと思う。

■最初の長期滞在者の交流の件は、引き続き市民協働推進課でやっている部分もあるし、皆さんにご協力頂いてやっていきたい。

○釧路市民もそこに積極的に関わられるオープンで、みんなが交流しますよというのが、一般地域の人にも知られているか、ご近所さん同士で小さくやっているかというのは大きな違いだと思う。

■その辺市民協働推進課にご意見として伝えさせて頂きたいと思う。

あと各種スポーツ大会の部分でいうと、今ちょうど国体の開催に向けて準備をしていく中で、ホッケー関係の施設更新というのは、実は国体に向けて整備をしている所である。そうすると国体以降、アイスホッケー関係等が、また釧路がメッカになれるのではないかと思っている。その他の施設については老朽化が激しい部分もあるし、ご指摘の点を考えた中で維持更新を検討させて頂きたいと思う。

○長期滞在の件だが、市民との関わりという部分で、私がずっと釧路に住んでいても長期滞在の方が年々増えているというのは知っているが、市民がどうやって関わろうというきっかけがないような気がする。港まつり等に参加してくれているということだが、自分は踊りには出ないしと

いう中で、今年うちの会社として仕掛けさせただいて、釧路にこういったおみやげを作っているものがあるということで、たまたま市の商業労政課の関係の事業でスクール講座をやっていて、そのスクール生と一緒に関わっていただいた。お互いに十数人ずつ、濃い2時間3時間をつくらせていただいたが、その時に参加していただいた方が何年も来ているがこんなことは初めてだということ、釧路市民の受講生たちも長期滞在の人ってこんな気持ちで来ているんだねとか、初めて話をしたとかいうことですごく盛り上がった。

60歳以上の方ばかりだったが、結構長期滞在者の方はSNSをやっている方が多くて、LINE等で繋がったりして未だに交流があるみたいである。そのような場づくりも、たまたま私がやりたいなと思ってこちらから申し出たが、そういう場づくりをするのが結構難関だったというか、申し込んですぐにいいですよとはなかなかならず、その辺の敷居がもうちょっと下がってくればいいのかと思う。

たまたま私は北海道の…コーディネーターというのをやらせていただいている、いわゆるUIJターンの関係で移住、定住の関係で会議に参加させていただいた。その中で釧路市の長期滞在の話が出ていて、UIJターンの人たちをいかに呼び込むかという話だったが、長期滞在者を体験でお試しで来ていただくというような期間を長くしたらどうだろうという話があって、千人規模で受け入れ体制があるという事例が紹介されたけれども、いきなりUIJターンと言って、じゃあ北海道にすぐに住んでいただきましょうと言ってもなかなかハードルが高いので、ちょっとお試しに来てみないかいといった時に、たとえば十勝でもやられているようなりんご園だとか、釧路では牧場があったりとか漁業関係もあるのかなと思うので、その辺を行政だけじゃなくもっと民間とうまく連携してできる仕組みづくりができればいいかと思う。

■市民協働推進課にそういう話を伝えさせて頂きたい。

◎最後の意見は伝えるだけじゃなくて、そういうものをうまく構築してくために場づくりをするのと、UIJターンにつながる長期滞在っていうのは今釧路でやっているのとはちょっと違う発想で、今までは観光の延長線上的な長期滞在だったけど、新しいジャンルとしてUIJターンにつなげるための長期滞在、お試し滞在、そういうものも本当に良い話だと思うので、ぜひ検討していただきたい。

【基本目標3】についての委員からの質問・意見

○子育て世代として、釧路市の子育て支援は大変すばらしいと感じている。一方でその素晴らしさに気付いていなかった自分がいて、前回の会議でもお伝えした。うちの会社は女性の社員が非常に多くて子育て世代の方がいるが、お隣の釧路町に住所があるとそういった支援が釧路町民なので受けられない。釧路市民だとそれが受けられるということを知って、釧路市ってこんなに手厚いんだなっていうのを知った。これはこのご時世待機児童の問題とか、子育ての問題がある中で非常に強い訴求力がある。けれどあまり知られていないというのがあったりする。ただめだとは思いますが、例えば釧路市とお隣の釧路町と比べると、どっちに住みたいですかと子育て世代に聞いたら、たぶんその子育て支援メニューを比べたら、絶対に釧路市でしょとおそらくな

と思う。そうするとお隣の釧路町に住んでいた若い人達が、ちょっと数10mこっこの橋を渡って引越してこようかっていう人がいるかもしれない。

これって実は一番最初にあった子育ての人口増に直結、つながる要因の一つになるんじゃないかなと思うので、すごく大事な施策であると思っていて、一つ一つのKPIに対するものを素晴らしいものをさらに高めていくという要素とプラス素晴らしい取り組みをさらに発信をして、子育てするなら釧路市に行こうかなというのがあるんじゃないかなと思う。

ちなみに「釧路 子育て支援」でグーグルで検索すると、釧路市の子育て支援のページが出てくるが、そこをクリックすると支援内容というのがテキストですらと出てくる。それを見た人は、釧路市すごいなとか釧路市手厚いなとかは1ミリも思わないので、多くの人は釧路は残念な感じなのかなと思うけれど、実はそうではないんですよ、実はすごいんですよというのを、5万円でも10万円でもちょっとお金かけて、子育て支援釧路市頑張ってますみたいなきれいなホームページ一枚作るだけで、若い世代の人達すごくアクセスすると思うし、これから子供育てる世代の若い人達って、わりと本当に真剣に考えたりとかする人が多いので、すぐにぱっと広がって拡散力があれば、子育てするためにということで近隣から釧路に転入者が増えるんじゃないかなと強く思うのでぜひお願いしたい。

■おっしゃるとおり子育ての環境づくりは、釧路市として頑張っているとは思いますが、いかんせん昔から言われているアピール不足もある。あと子育て世代の方々で一番インパクトがあるのが、乳幼児医療の無償化である。周りの町村で中学生まで医療の無償化の話がされているが、なかなかここまでの人口規模になると、そこまで医療の無償化を引き上げると莫大な財政負担になり、他のメニューを中止しなければならないような状況になる。市内でも医療費の助成はインパクトはあるが、どこまで上げるのか、そういうステージではなく違うところで、今おっしゃったような医療費じゃないところの子育てメニューが充実しているところで勝負していくほうがいいのではないかなど、今議論がいろいろあるところなので、今おっしゃった委員からいただいた言葉を原課のほうに伝えて、そういう観点で子育て環境づくりに取り組むように伝えていきたい。

○私も子育て環境が良くて移住してきた一人。例えば学童保育の問題にしても釧路市は全ての市の直営でやっていて、学童保育料は無料である。実費だけは回収しているが、これは他の市町村では全然そうではなくて、学童は様々な団体に委託されていて、委託されているけどなか行政が財政的に支援してくれないので、一人について月1万とか2万とか、3人いると月に学童保育料だけで何万円も飛んでいくみたいなことが問題になっていて、そういう意味では釧路市は本当に恵まれている。釧路にいる人達はある意味当たり前だと思っているんだけど、他市町村の方から見ると全然そんなことなく、釧路は本当に頑張ってくれている。だからぜひホームページ等でアピールしていただければと思う。

○他の地域を知らないものとしてお話をしていきたい。まず病後児保育の関係だが、こちらの指標を見ても、現在1か所実施をしていて今後も一つということはこのままということだが、病後児保育を実施している中で、実際として同じ傷病でなければ、同時に受入れができないという部分があって、特に感染性のものになると、受入れができないということの中では、市内に一か所だとなかなか認知と利用が広まらないのかなというふうに感じている。これを全園ということではないにしても、東部、中部、西部に一か所ずつだとか、設けながらお母さん方の働く環境を整えるた

めにも、そういった形で現状の目標1か所達成に満足することなく進めていただきたいと思います。児童館の話だが利用人数が増えているということで、増えているのは学齢3年生から6年生に引き上げた関係で大幅に増えているかと思う。ただ現状の中で保護者の方からお話を伺うのが、3年生から6年生に引き上げるのはうれしいが、特に保育園から学校に入学して来たときに、保育園だと有料にしる延長保育で、例えば7時まで預かってもらえるので、お母さん方が5時に仕事が終わっても、ゆとりをもって、子供を迎えに行くことができる。夕飯の買い物をした後に行ったりだとか、そういうことができるが、児童館は突然6時になるということで、なかなか働く部分で苦勞をしているという話が出ていて、できれば有料でもいいから6時から7時に延長してほしいという意見は多々出ているので、ぜひみなさんがこれだけ絶賛する釧路市の子供、子育て支援なので、またそういう実際に使っている方々の意見も組み入れながら、さらにいいものにしていただけると定住人口が増えるのかなというふうに思う。

別な話だが高等学校の話で、道の公立学校の配置計画の策定会議に出ているが、釧路管内を見たときに釧路市ばかり間口が減っていつている。実情的に。確かに数字上の資料を見ると、釧路の中学卒業者が減っているの、それに合わせて減らしているというのが道教委の話だが、ただそこには例えば標茶町だとか他の地域から入ってくる子ども達のことが全く入っていない。それも入れると結局オーバーした釧路市の子供達は近隣に行かなければならないという現状が出ていて、新聞などで倍率を見てもわかると思うが、釧路の学区で見ると、釧路市内の学校は1倍以上となっている中で、他のところは0.5とか0.6とかいうことで、他の地域はやはりにその地域に1校しかないがために間口は確保しようと。例えば2間口必要な卒業生がいれば、2間口確保しようと、そういうふうに動いている状況で、都市が故に、たくさん学校があるが故に、釧路市の子供達がちょっと割をくってるなという印象があるので、もう少し釧路市の方にも道をあげてその辺言っていたら、子供達がこの地域から出るということがおきかないようなはたらきかけをしていただきたい。

- 病後児保育で同じ症状のみの方が一園に行き、そこでしか受け入れられないという状況があるというお話でしたが、まさにその通りで、確かに一か所のみという形になっていて、こちら側の事情をお話すると、親御さんたちに説明しても、病後児というところで理解していただけないことが多かったという話を原課から聞いている。また病後児保育を、病気になっていない子達と分けるための施設整備も必要だということで、結構な経費が一園を整備するだけでも、準備もかかっていたりするものなので、今おっしゃる通り拡大をしていければいいとは思いますが、予算の関係とかそういうところもあるので、すぐとはいかないが、検討させていただければと思う。

また3年生から6年生の放課後児童のところだが、こちらのほうも今無料で実施させていただいているが、今般の財政事情の関係で、無料でやっているのが逆にどうなのかとところが出ていて、登録者数がすごく増えているらしく、ただ施設維持していく上で、人口は減るけれども子供たちはどんどん登録できたらいいという考えで、使わないけど登録する人が増えたりとか、そういうことを考えていくと、有料化もそろそろ視野に入れるべきかもしれないという話は、予算の議論の中でも出ており、そうなったときに逆にただ単にお金を取るだけではなくて、今おっしゃったような7時まで延長するからその見合った分の料金を徴収するという議論を進めていく考え方もある。高校の間口の話は、委員ご指摘の通り、蝦名市長も関心を持っており、ことあるごとに教育委員

会に対しても、高校の間口の何をどう考えてるのかという話をしている。やはり人づくりがこのまちに大切なことであるという、高校の、なるべく釧路市の間口を減らさない。もちろん管内も含めて考えていかなければならないということは、市長も重々承知しているので、また改めて伝えていきたい。

【基本目標4】についての委員からの質問・意見

○地域コミュニティの強化というところと、防災・防犯、特に防災の部分ですが、すごく密接に関わるということが最近言われていると思うが、防災事業は取り組みやすいというか、形が見えているので取り組みやすいと思うが、だからこそ地域コミュニティの部分をどうしていくかというのがとても大きな課題だと思う。私よりも若い世代で言うと、昔ながらの町内会というのはちょっとあまり良い印象を持っていなくて、会費を徴収されるだけみたいなイメージが大きいと思うが、そうじゃない今新しいコミュニティのあり方というの、市役所の若い方中心に考えれば色々な取組みというか、コミュニティを作る仕掛けづくり考えられるのではないと思う。またここで、公営住宅の方にみなさんに入ってもらえるように取り組んでいるということだが、辛口で言うと市役所の方は100%になるかなということもある。率先垂範じゃないけれども自分達のコミュニティ、一番小さな市役所というコミュニティの中で取り組めないことが、地域で取り組めるはずはないと思う。なので、自分達がどうだったら入りたいと思うかという我が身を振り返るような、そういう考え方で、新しい地域、町内会、コミュニティのあり方というのを少し考えていってはどうか。いじわるな言い方をすると市民の方もそう思っている方がいると思う。あまり言わないが。そういうことができるようになればきっと市民の皆さんも興味を持って、やはりこういうことに関わっていかなくてならないと感じてもらえると思うので、そういう取組みのほうも心がけていただければと思う。

■市職員の町内会の加入率については8割弱程度となっていて、100%と言うのは確かにおっしゃる通りだけれどもなかなかそこまで至っていないのが現実である。

○責めているのではなく、残りの2割の人はどうしたら入ってくれるのかと前向きに捉えていただきたい。

○釧路市役所の障害者雇用は達成されているのか。

■達成している。かなり数値は上の方である。

【基本目標5】についての委員からの質問・意見

○2点あるが、1点目が基本目標に人口を置いていて、数値目標と関連統計ということで札幌市を除いた北海道の人口が記載されていて、全体が減っている中で、釧路市も減っているということで、大きな流れの中でしょうがないという側面があると思うが、一方で人口減少に対する取組というのは、釧路市だけではなくて都市間競争というか、何かしら良い取り組みをしているところ

には人が集まりやすく、乗り遅れている都市はより早く衰退していくという側面も大きいのかなと思った時に、他都市との変化の差というのは指標として大事なんじゃないかと思っている。今の釧路はどんどん人口が減っていて、来年あたりには苫小牧に抜かれそうだというのが見えてるところだとは思う。そういった変化の中で減ってはいるけれども、減りが少ない地域もあるし、むしろ少し増えている地域もあったりするということもある。それは釧路市はだめだということではなくて、事実としてあって、ただその背景には経済的な背景というのが当然あって、それが今まで全部見てきた基本目標1から5が多分全体を通して釧路市を発展させていこうという部分の、人口増加につながって行くのではないかと思うので、ここには例えば北海道のベスト10の都市の人口推移とかそういうのがあったりすると釧路市の位置付けってというのがよりわかりやすいのかなと思う。

2点目はコンパクトなまちづくりの推進ということで、まちづくりとしてコンパクトシティが大事なテーマとなっているとは思いますが、一方でコンパクトシティを最初取り組み始めた団体での、先進的な事例とされてきた各地域の取り組みが、実はあまりうまくいっていないというのがここに来て事実として出てきてしまっている。富山の取り組みであったりとか、青森の駅前開発地域に関しては破綻をしてしまったりとかというのがあって、理論的にはすごく理にかなっていて確かに実現できると素晴らしいよねってところがある一方で、行政側のまちづくりからの思いとしてそうなってくれるとありがたいが、市民からすると別に中心市街地にわざわざ引っ越したくないとか、異動したくないとか、このままだいたいという思いがあったりして、そこでの理想と現実のギャップが結構あるかなと思っている。今まさに計画を策定中ということだと思うので、そういった企画が始まった段階の状況と、3年、2年経った今の状況とは少し変わっている状況があるのかなと思うので、そこも踏まえた中でより成果につながる現実的な計画というのが必要なのかなと感じていて、そういったことも検討頂ければと思う。

■他都市との比較ですが、総合戦略を作る段階で人口ビジョンを作らせていただいている。その時に道内10市の人口推移を見ている。うちと函館市がほぼ同時期に減りだしていて、小樽市がうちの10年くらい前に減りだしている。なぜ港町だけこういう傾向を示すのかというふうに見ていた。併せて人口ビジョンを作る際に帯広市と苫小牧市との人口動向の部分について、22年の国勢調査で見ると、当時、総人口はうちが5千人くらいから8千人くらい勝っていたが、にも関わらず若い人の人数が実数で既に苫小牧市や帯広市より釧路のほうが少なかった。などなど当時からの構造的な部分も、その後の人口減少には大きく影響していた。特に若い人たちが以前より抜けていたという構造が従前よりずっと続いていた中で、いかにその人たちの転出を止めるか、また、戻って来れる環境をつくるか、そういった部分も含めて当初分析をしていた。ただおっしゃる通りここ数年さらに人口減少が各市町村によって大きく動き出しが変わってきている。帯広市はだいぶ安定傾向にあり、苫小牧市は増加ないしは最近減りだしたと嘆いておられるようですが、うちの減少幅のほうが大きいので、近々人口が逆転なんて話も言われており、今後も他都市の人口動向を注視してまいりたい。

コンパクトシティの部分ですが、どうしてもまちの人口が今の話のとおり、ある程度まで減るとするのは我々も覚悟はしている上でのこの基本目標5であり、これまでもどうすれば持続的なまちになるか、単純に行政サービスだけを縮小すればいいということではないと思う。負の連鎖が起

きる可能性がある。そんなときにいかに効率的な行政サービス体制を作るかという意味合いにおいては、何らかの形でコンパクトなまちづくりというのが必要だと思う。住むところは当然自由な中で、ここに住むことによるメリット、デメリット、様々な選択肢を持っていただいた中で、進めていくべきものだと思っている。その一つが今回の計画の中にあるバスの話だとか、居住誘導、都市機能誘導も含めたコンパクトシティの部分だと思っているので、正直我々も全国先進事例はおさえてはいるが、成功事例があるかと言われたら思いつかないため、模索しながらの取り組みになるかと思う。引き続きそういったご意見をいただきながら、今後進めさせていただきたい。

■立地適正化計画というのが実際このコンパクトシティの施策ということになると思う。短期的にみるとみなさんそれぞれお住まいを持っている中で、すぐにコンパクトなまちづくりと言われても、実感ないだろうというのがあるが、実態上都市計画は20年先を見通して、見通した中での交通計画、そしてまちの住まいというのを計画している。その点で他都市に比べると今立地適正化計画の部分では、都市機能を誘導すべき、つまり利便性を確保するエリアというのが市内に8つ設けている。これは国土交通省とも話をしていた時点では、こんなに8つも設けるのかというのが、実は言われていた部分ではあるが、旧釧路市の歴史的な経過から見ると、東部地域に炭鉱で発展したまちの形成、中部のエリアというのはこの中心市街地含めた商業と駅で栄えたエリア、そして西部にいくと旧鳥取町という部分のエリアで製紙、馬市含めた工業系の土地があり、実は3つのエリアが非常に特色を持って成長してきているという経過がある。故に戦後6万人だった人口が10年で倍の12万になって、さらに次の10年で6万人増えて18万。その戦後20年で一気に18万まで伸びたまちというのは実は数少なく、当時の40年代の都市の成長から見ると川崎市に次ぐ人口の伸びというのが当時の発展を物語っているというような経過があって、そういった中でのエリアごとに仕事と住まいとそして暮らしがあるという部分。そういう配置計画をとってきている。これから人口が減っていく中で黙っていればどんどん商店も成り立たなくなると、実はそれぞれ住まいの近くの店舗もなくなるかもしれないということがある中で、いかに利便性を各エリアで確保するかという部分を考えてみているので、確かに富山市や青森市という部分も伝承的に捉えるとそういう観点もあるけれども、まちづくりの観点では、住まいの観点と公共交通の観点ということも含めてやっているの、そういった長期的な視野に立ってまちをマネジメントしていくというようなことを考えている。またこちらの計画も来年にかけて作る予定ですので、その点我々もしっかり周知していきたいと思っている。

◎ちなみに青森は明らかにそうですけれども、富山は色々考え方があるかとは思。そこは前に住んでいたということもあるけれども。

私から公有資産マネジメントのところですけど、適正化計画づくりに関わった経緯もあって、進捗が0%というのは極めて遺憾。きちっとした努力をして頂きたいなということをご伝えてもらえればと思う。もう一つ今事務局が説明しながら奇しくも言っていたことだが、基本目標の数値目標が人口そのものというのはやはり違和感がある。計画の全体の目標が人口だというのはわかるが、この基本目標の数値目標が人口だというのは違和感があるし、計画の進捗が数値目標だというのも計画を作ればコンパクトなまちづくりが推進したのか、空家がなくなるのかといったらそうではないので、やはり違和感がある。我々もその計画を作ったメンバーがかなり残っ

ているが、数値目標の議論はなかった。どんな内容にするかということで精一杯で、改めて見るとちょっとなというのがいっぱいある。こういうのは柔軟に見直しをしていくということだったかと思うので、ぜひちょっと今から見て、この数値目標やKPIも適したものに、柔軟に見直しをしていくということもそろそろやってもよろしい頃かなというふうに思う。来年度に向けての課題ということで、市として取り組んでいていただきたい。これは基本目標5に関わらず全てのものということになる。

それでは本日様々な意見が委員の皆様から出ましたけれども、ぜひこれからの計画の推進に役立てていくと共に、今後の見直しに役立てていただきたいと思う。

4. 閉会